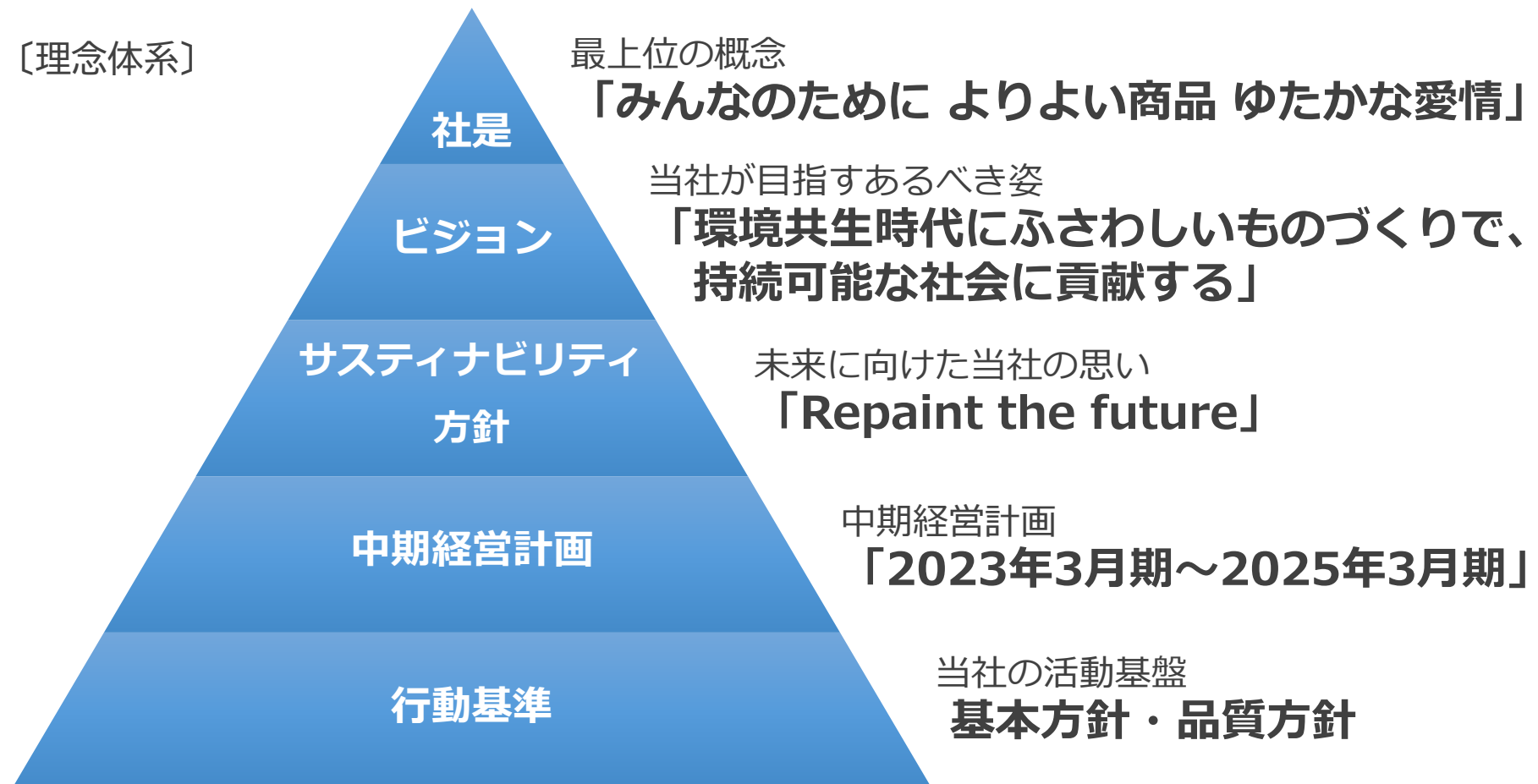


2023年3月期

決算説明会

1. 2023年3月期 決算概要
2. 2024年3月期 業績予想
3. 2024年3月期 事業活動
4. 中期経営計画の進捗

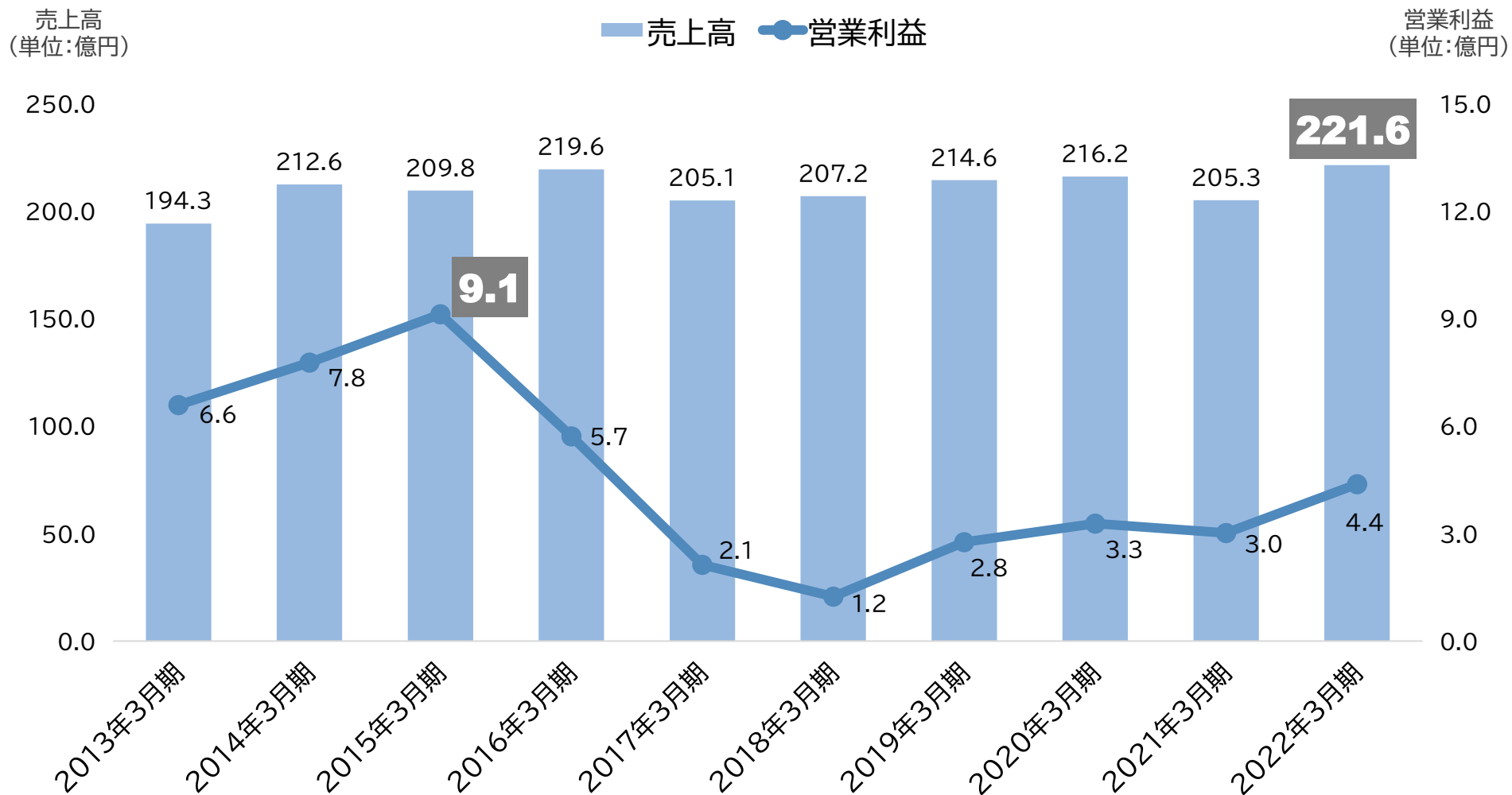
日本が経済大国への道をひた走りはじめた1959年、キクスイは誕生しました。産業界全体が大量生産に沸きあがり、高度経済成長を続ける中、私たちが企業理念に掲げたのは、人や社会、更には地球環境にとって何が大切かの追求でした。そして、「人と自然と共に」をスローガンに、つねに新たなテーマへの挑戦を続け、グローバルな視野に基づいた社会貢献でした。以来、この思想は、高品質で高機能、かつ環境への安全性を十分に誇れる数々の建築仕上塗材を生み、同時に環境共生企業として社会に貢献するキクスイの存在を確かなものとしています。



年度別 連結業績の推移 [過去10年]

➤ 連結売上高の最高額 ⇒ 2022年3月期 / 221.6億円

➤ 連結営業利益の最高額 ⇒ 2015年3月期 / 9.1億円



- 2022年4月1日付け、完全子会社である日本スタッコ株式会社を吸収合併したことで、経営資源の集約、製造基盤の強化と製品競争力の向上を図りました。
- 新型コロナウイルス感染症の影響が長期化したものの、行動規制の緩和で経済活動が正常化へ進み、改修市場を中心に回復傾向で推移しました。
- ロシア・ウクライナ情勢の長期化による原材料費の高騰や、エネルギー価格の高騰による運送費の増加などの影響により、売上原価率が前期比で0.5%増加しました。
- 市場のニーズにマッチした高付加価値製品の拡販、およびインフラ・無機・環境市場への活動強化により売上高が前期比261百万円増加、営業利益が131百万円増加しました。

連結売上高

22,423

百万円

〔 前期比
1.2%増 〕

連結営業利益

569

百万円

〔 前期比
29.8%増 〕

連結経常利益

650

百万円

〔 前期比
21.8%増 〕

連結当期純利益

246

百万円

〔 前期比
160.3%増 〕

(単位:百万円)		2022年3月期	2023年3月期	増減率
		通期実績	通期実績	
売上高		22,162	22,423	1.2%増
営業利益		438	569	29.8%増
	売上比	2.0%	2.5%	
経常利益		534	650	21.8%増
	売上比	2.4%	2.9%	
親会社株主に帰属する 当期純利益		94	246	160.3%増
	売上比	0.4%	1.1%	

※百万円未満切捨

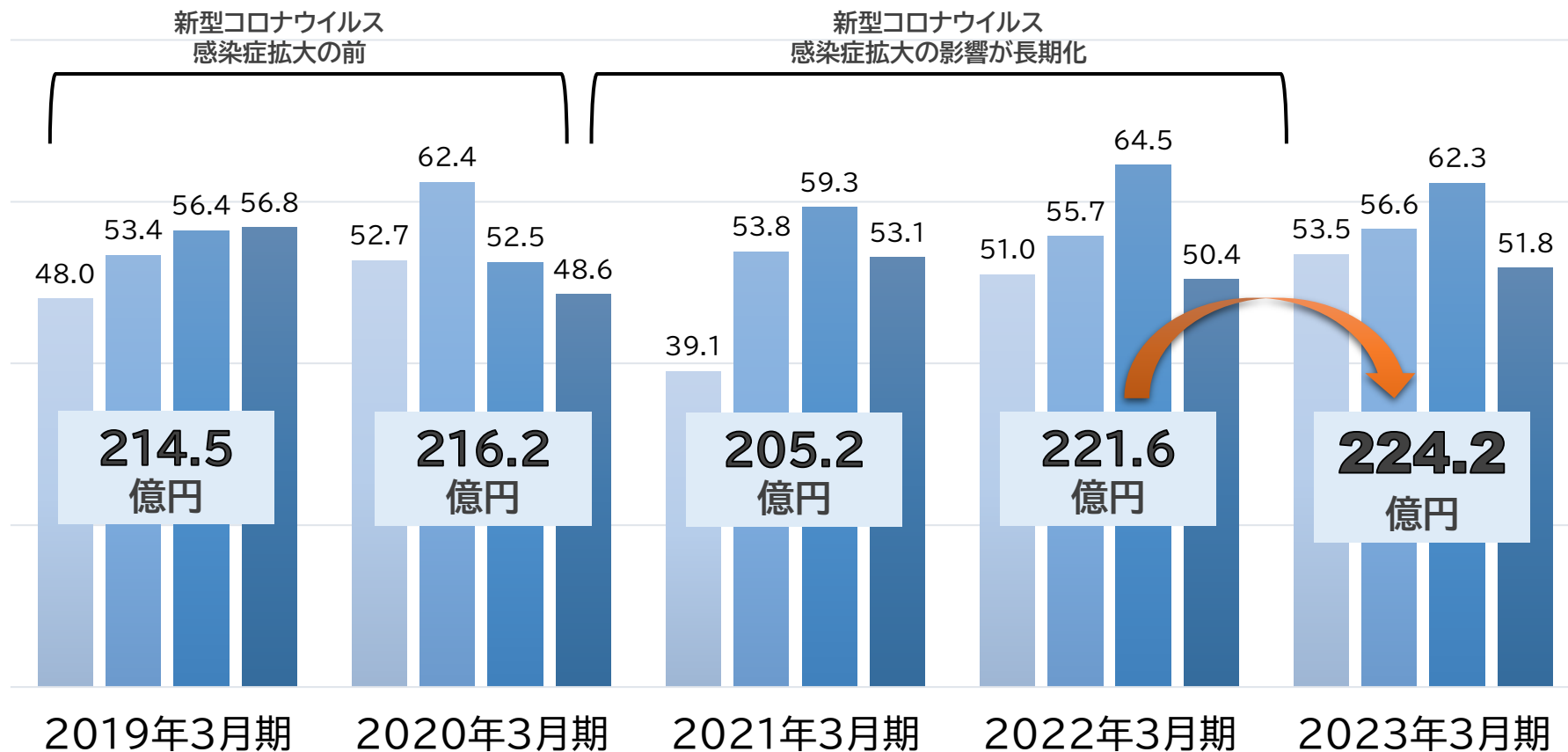
連結売上高 四半期ごとの推移〔過去5年〕

➤ 2023年3月期は、改修市場のニーズにマッチした高付加価値製品の拡販、及び施工を伴う完成塗膜の提供に努め前期比で1.2%の増収。

<連結売上高>

(単位:億円)

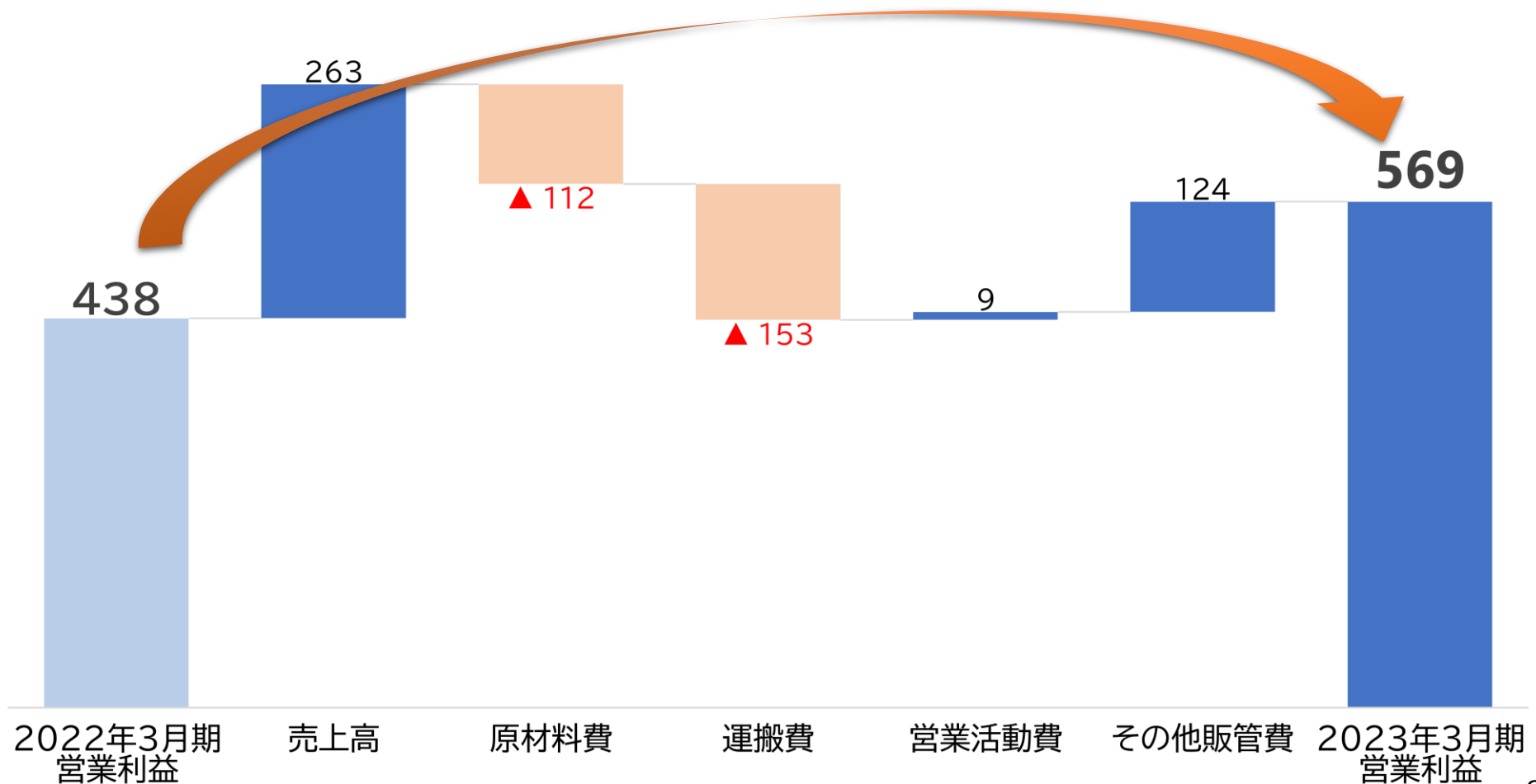
■ 第1Q ■ 第2Q ■ 第3Q ■ 第4Q



➤ 2023年3月は、原材料費の高騰・運送費の増加などの影響を受け、売上原価が増加しましたが、販売価格への転嫁、及び経費削減に努め増収。

(単位:百万円)

<連結営業利益>



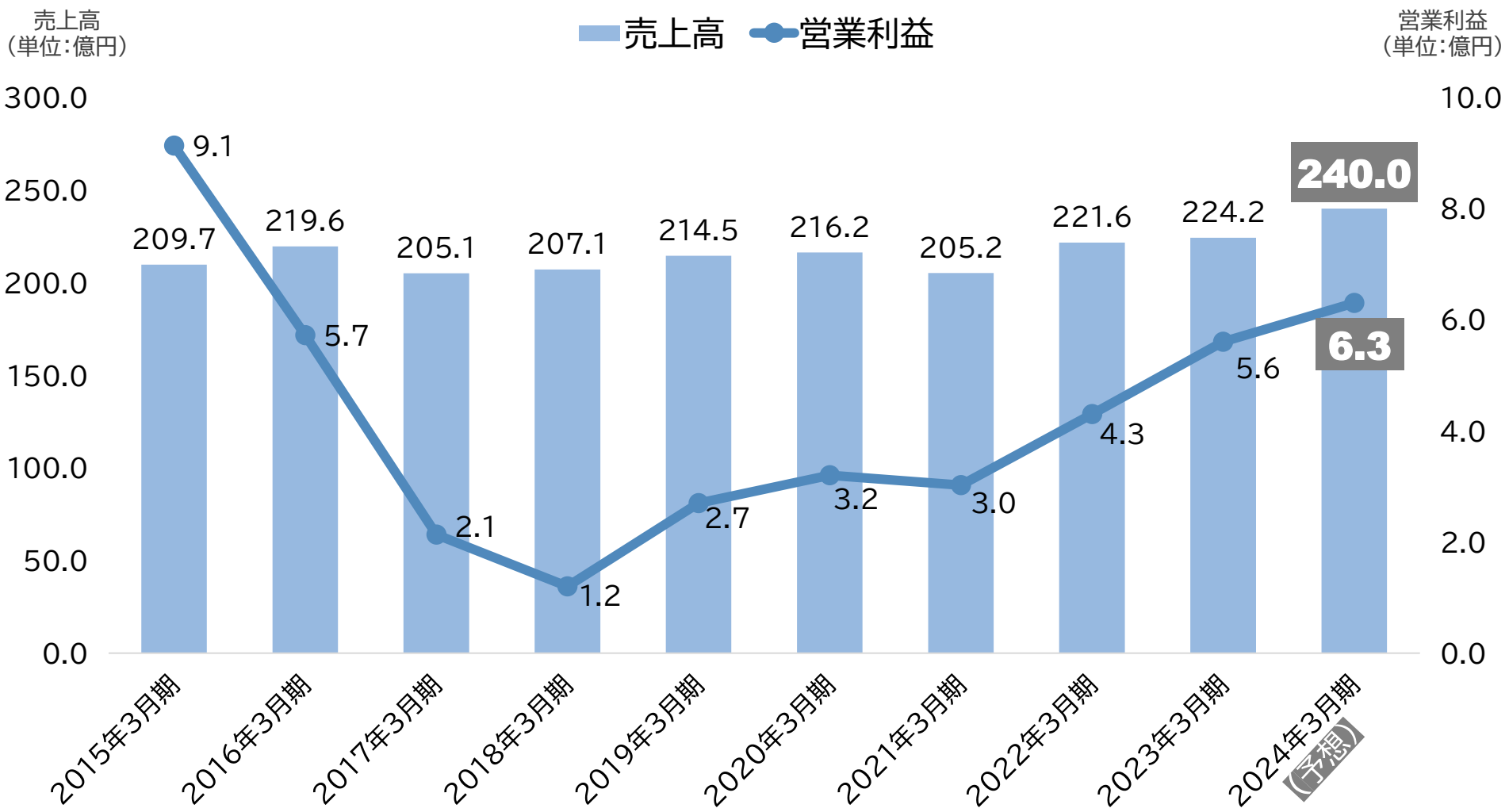
1. 2023年3月期 決算概要
- 2. 2024年3月期 業績予想**
3. 2024年3月期 事業活動
4. 中期経営計画の進捗

(単位:百万円)	2023年3月期	2024年3月期	増減率
	通期実績	通期予想	
売上高	22,423	24,000	7.0%増
営業利益	569	630	10.6%増
売上比	2.5%	2.6%	
経常利益	650	664	2.0%増
売上比	2.9%	2.8%	
親会社株主に帰属する 当期純利益	246	380	54.3%増
売上比	1.1%	1.6%	

※百万円未満切捨

連結業績予想と年度別連結業績の推移 [過去10年]

- 2024年3月期 / 連結売上高 ⇒ 240.0億円 ※過去最高を予想
- 2024年3月期 / 連結営業利益 ⇒ 6.3億円

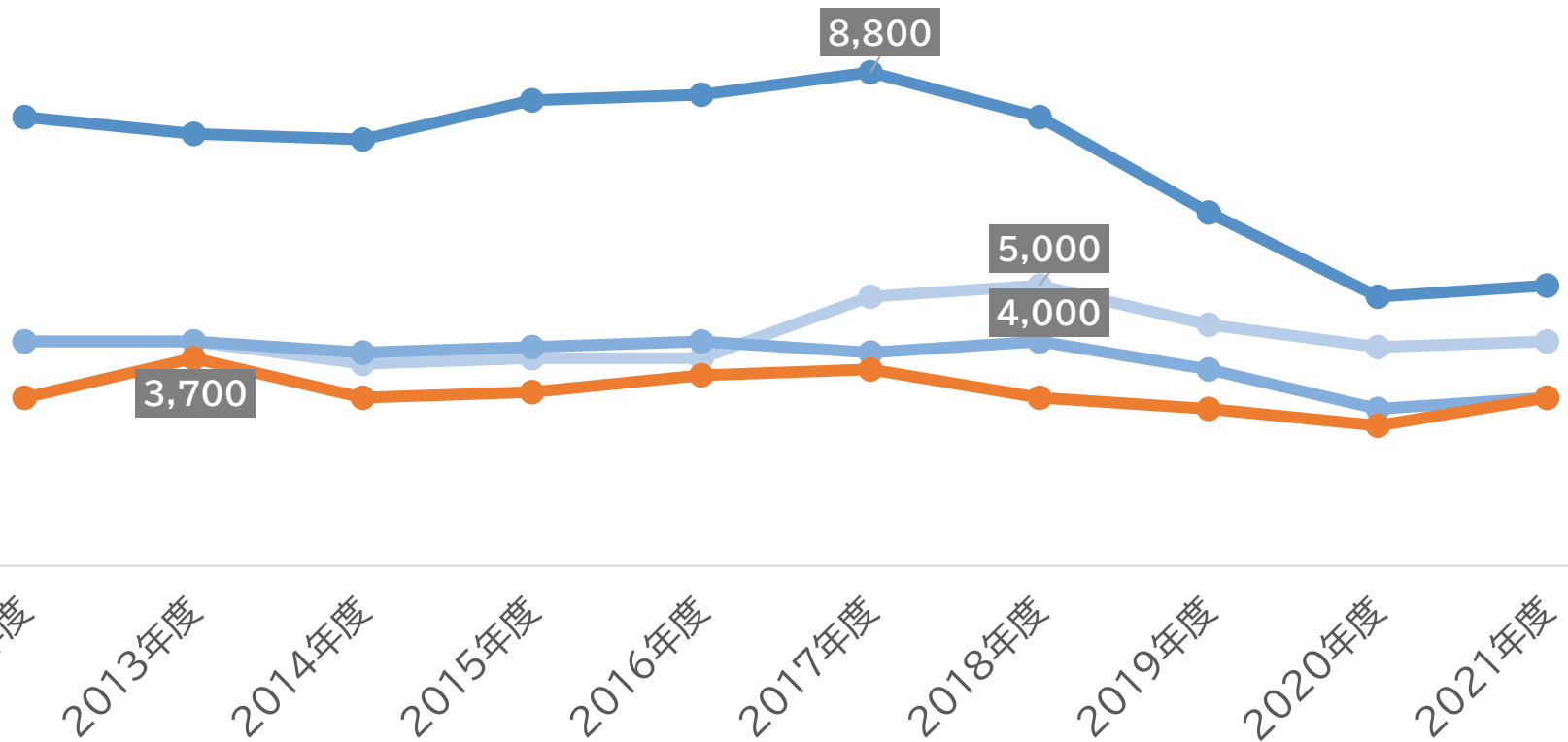


1. 2023年3月期 決算概要
2. 2024年3月期 業績予想
- 3. 2024年3月期 事業活動**
4. 中期経営計画の進捗

- 建築塗装工事の市場は、約80%を塗り替え(改修)が占めている。
- 低層住宅塗り替えは、成長市場として異業種の参入増加により競争が激化。
- マンション大規模修繕は、春・秋シーズンマーケットとして安定推移。
- 非住宅塗り替えは、社会動向の影響を受け易く不安定な市場。
- 新設は、減少傾向ではあるが横ばいで推移。



(単位:億円)



- 建物や構造物の長寿命化に向けたインフラ整備の市場。
- 環境配慮、ランニングコスト削減を意識したニーズへの活動。

量販店など異業種の参入により競争が激化。製品の主流は、微弾性フィラー+シリコンから、万能シーラー+シリコン・ふっ素など、高付加価値仕様に移行。



春・秋に定期修繕が多く発注されており、製品の主流は、微弾性フィラー+シリコン。また、居住者へ配慮した水系、ローラー工法の選択が多い。

施設の維持修繕需要が多く、汎用製品による施工が主流。その他、遮熱・断熱機能を付加して、省エネ効果や労働環境改善に向けた投資の需要もあり。



耐震から長寿命化対策としての予算化に移行。防水・追従性・中性化・塩害対策など、機能性が付加できる製品が期待されています。

2021年市場規模:1.2兆円

住宅	4,000億円
マンション	3,000億円
非住宅	5,000億円

その他、ニーズとして、建物や構造物の断面修復、低炭素対応型製品、有害物質対策、水系化など、持続可能な社会への貢献。



▶ 当社の6つの強み ~持続可能な住環境の実現~

建築仕上塗材の製造メーカーとして、「塗装業」「防水業」「タイル業」「左官業」「吹付業」など、様々な業種と関わり、常に新たなテーマへ挑戦し続けてきました。当社の役割は、リフォームのソーシャルワーカーとして、「環境」「漏水」「剥落」「美観」「省エネ」「機能」など、住環境の整備と建物や構造物の長寿命化の一翼を担う事です。

★環境対策

- ・アスベストの飛散

⇒

- ・健康被害
- ・環境汚染

アスベスト含有建材の取扱いには、居住者、労働者、作業者の安全を確保する為にも、適正な調査・分析結果のもと、専門知識と経験を持つ企業が求められています。 ⇒ **安全・安心な製品と工法を提案します!!**



アスシール工法・塗膜除去システム

★漏水対策

- ・内外壁からの漏水
- ・地下ピットの漏水

⇒

- ・漏電
- ・近隣トラブル
- ・汚染

漏水は、原因追究が難しいとされていますが、住環境に与える影響も大きく対策は急務とされています。 ⇒ **安全・安心な製品と工法を提案します!!**



「IPH工法」

★剥落対策

- ・磁器タイルひび割れ
- ・磁器タイル浮き

⇒

- ・剥落災害
- ・漏水
- ・美観の低下

外壁の磁器タイル剥落は、住民及び通行者に危害を加える可能性があります。また、修繕手直し方法によっては、高級感のある意匠性が損なわれ資産価値低下に繋がる場合もあります。 ⇒ **安全・安心な製品と工法を提案します!!**



「モダンアートストーン」

★美観回復

- ・打放コンクリートの経年劣化

⇒

- ・ひび割れ
- ・汚染
- ・美観の低下

打放コンクリートは、経年劣化とともに新築当時の質感が損なわれていきます。改修方法では、新築当時の質感を再現するのが難しく、塗装で塗り潰しの選択をする場合もあります。 ⇒ **安全・安心な製品と工法を提案します!!**



「キクスイSA工法」

★省エネ対策

- ・気候変動
- ・内温度の変化

⇒

- ・消費電力の増加
- ・過酷な労働環境

太陽光で熱せられた屋根・外壁は、室内温度を上昇させ室内環境を悪化させる場合があります。 ⇒ **安全・安心な製品と工法を提案します!!**



各種遮熱・断熱仕上塗材

★機能回復

- ・中性化・塩害
- ・経年劣化

⇒

- ・鉄筋の腐食
- ・ひび割れ
- ・欠損

コンクリート構造物は、立地条件や気象条件・経年劣化により、本来の機能（強度・耐久性・耐火性など）が低下し、長期的な維持保全が困難になる場合があります。定期的な診断、劣化原因に対する適切な処置により、建物や構造物の長寿命化対策が求められています。 ⇒ **安全・安心な製品と工法を提案します!!**



「キクスイBR工法」

メーカー責任施工の取り組み

➤ 社会的責任

当社が提供する製品は、販売だけでは完成品になりません。製品に施工が加わる事で完成品の塗膜となり、建物や構造物を保護しています。新築や改修、公共物件や戸建住宅など、様々なニーズ、要望に、製品販売と合わせ、施工を伴う完成塗膜として提供する事は、業界発展に寄与すると共に、社会的責任と捉え、ご相談をお受けしています。

【住宅】

- ✓ 屋根塗装
- ✓ 外壁塗装
- ✓ 鉄部塗装
- ✓ 防水・シーリング など

【非住宅】

- ✓ 環境対策(アスベスト処理)
- ✓ 耐火塗装
- ✓ 剥落対策
- ✓ 漏水対策
- ✓ 美観回復 など

➤ 海外事業

海外事業は、2021年12月13日「中国事業の見直しに関するお知らせ」を公表。2022年2月10日「業績予想の修正並びに特別損失(子会社の固定資産の減損損失(連結))の計上及び子会社株式評価損等(個別)に関するお知らせ」を公表。2022年3月22日「連結子会社の事業移管及び清算に関するお知らせ」を公表。その他、経過については、確定次第、速やかに適時開示してまいります。

※弊社グループは、単一セグメントであるため、セグメント別情報の記載を省略しております。 16

1. 2023年3月期 決算概要
2. 2024年3月期 業績予想
3. 2024年3月期 事業活動
- 4. 中期経営計画の進捗**

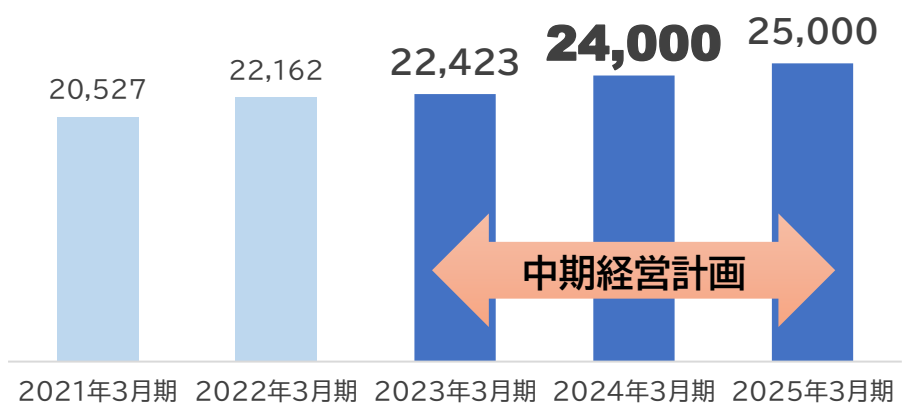
【基本方針】



【重点施策の進捗】 [期間:2023年3月期]

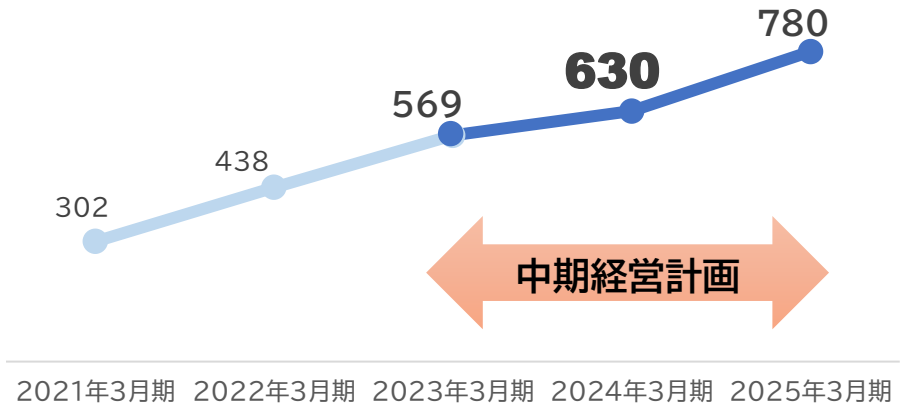
収益基盤の構築	環境と健康に配慮した製品の普及・拡大	環境を意識したサプライチェーン	働き方改革の加速
<p>経営資源を集約し、生産性と製品競争力の向上を図る。</p>	<p>水系・無機の製品を中心とした開発・製造・販売に努め、有害物質含有及び排出物の低減を図る。</p>	<p>循環型を意識した事業活動に挑み、人や環境に害を与えないサプライチェーンの構築をめざします。</p>	<p>働く人々が、健康でいきいきと活動できる環境への整備。</p>
<p>・海外事業の見直し。 ・日本スタックの吸収合併で、製造基盤の強化と製品競争力の向上を図る。 ・固定資産として、工場用の土地・建物を取得。</p>	<p>・ジオポリマー技術による製品開発に成功。 ・再生可能原料由来のエマルジョンを使用した低炭素対応型の製品開発に着手。</p>	<p>・環境配慮製品の開発において、化石資源を再生可能な原材料に置き換えが可能な原材料調達の推進を継続。</p>	<p>・健康経営優良法人認定取得に向け準備を開始。 ・社員教育体制の見直し。 ・社内提案制度の構築に向け、「T-1グランプリ」を開催。</p>

〔連結売上高〕



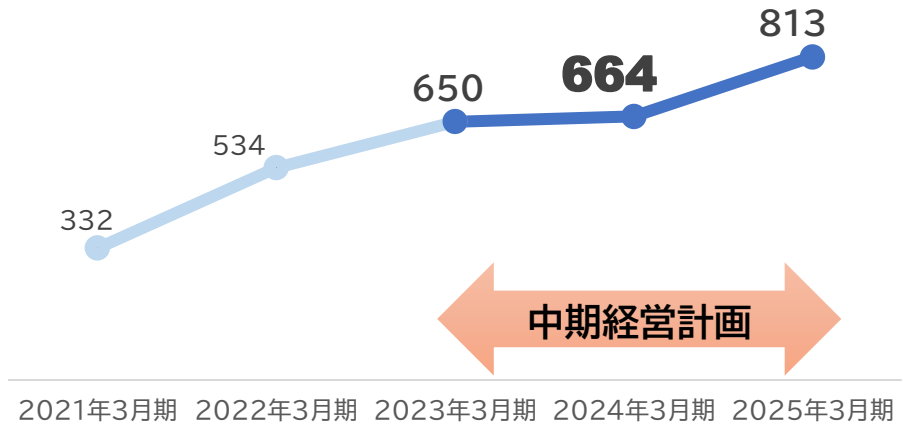
- ・1年目: 目標22,600⇒実績22,423(目標比99.2%)
- ・2年目: 目標24,000⇒目標通りで予想

〔連結営業利益〕



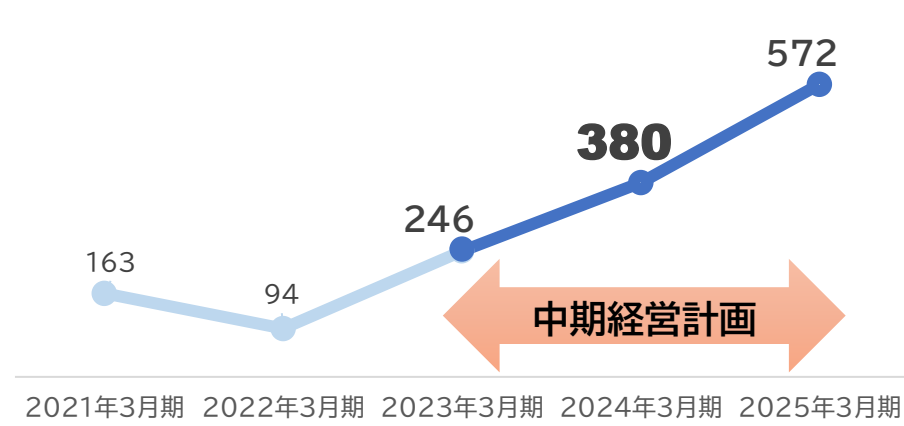
- ・1年目: 目標480⇒実績569(目標比118.5%)
- ・2年目: 目標630⇒目標通りで予想

〔連結経常利益〕



- ・1年目: 目標514⇒実績650(目標比126.5%)
- ・2年目: 目標664⇒目標通りで予想

〔連結当期純利益〕



- ・1年目: 目標258⇒実績246(目標比95.3%)
- ・2年目: 目標471⇒380予想(目標比80.7%)

▶ サステナビリティ方針

『Repaint the future』

当社は、サステナビリティな経営を推進する上で、何もしなくてはくすんでしまう未来を、菊水化学の力で明るく塗り変えたいとの思いと、人を大切にしたい、自然を大切にしたい、人々の暮らしや街を大切にしたいという想いを込め『Repaint the future』をサステナビリティ方針として掲げました。

〔社会面〕 安心して働ける環境づくり

- ・働き方改革の加速
- ・健康経営の推進
- ・多様な人材の確保
- ・安全衛生の充実



〔環境面〕 製品を通じた街づくり

- ・環境負荷の低減
- ・無機・水系製品の普及
- ・環境対応製品の開発



〔ガバナンス面〕 ガバナンスの強化と充実

- ・コンプライアンスの強化
- ・地域社会への貢献



- ・健康宣言(2023/4/1)
- ・社員教育体制の見直し
- ・社内提案制度の構築(573件)



- ・太陽光パネルの設置(犬山、各務原工場)
- ・CO2排出量削減目標の策定(年率3%)
- ・低炭素対応型製品の開発



- ・サステナビリティ推進委員会の設置
- ・地域学生との交流(校外学習の受入れ)
- ・小・中学校配布の副読本でお仕事紹介



※会社紹介

名古屋証券取引所 メイン市場

東京証券取引所 スタンダード市場

●本社:名古屋市中区栄一丁目3番3号

●創業:1959年5月21日(昭和34年)

●資本金:19億7,273万円

●従業員数:470名(2022年3月末)

●事業内容:

塗料および塗材の製造、加工ならび販売

土木用および建築用等の化学工業品の販売

土木材料および建築材料の製造、販売ならびに施工

《 沿革 》

1959年5月	遠山昌夫が名古屋市で菊水商事創業
1963年6月	菊水化学工業(株)に社名変更
1969年5月	愛知県犬山市に犬山工場を建設
1973年1月	福岡県粕屋郡に福岡工場を建設
1976年11月	JISA6909の取得を開始
1977年9月	茨城県古河市に茨城工場を建設
1988年11月	名古屋証券取引所二部に上場
1991年2月	岐阜県各務原市に技術開発施設移転
1999年3月	ISO9001を取得
2004年4月	菊水化工(上海)有限公司を設立
2005年3月	住宅事業本部を新設。全国展開を開始
2010年1月	日本スタッコを子会社化
2014年12月	東京証券取引所二部に上場
2015年4月	菊水香港有限公司を設立
2016年1月	菊水建材科技(常熟)有限公司を設立
〃	台湾菊水股份有限公司を設立
2017年5月	中国江蘇省常熟市で工場を開業
2017年7月	愛知県瀬戸市に東海工場を建設
2018年1月	犬山工場を全面改築
2020年6月	茨城工場に溶剤調色工場を増築
2022年7月	本社移転

kikusuiグループ

【国内】

▶菊水化学工業(株)

本社

工場[6拠点]

建材塗料事業本部

[3支店13営業所・出張所]

[日本スタッコ営業部]

[海外部]

住宅事業本部

[2営業部14営業所]

【国内グループ会社】

▶(株)ツーアール

【海外グループ会社】

▶菊水化工(上海)有限公司

▶菊水香港有限公司

▶菊水建材科技(常熟)有限公司

▶台湾菊水股份有限公司

※2023年3月末時点

《お知らせ》

2022年7月19日

弊社は、本社機能の充実及び業務の効率化、生産性の向上を図ることを目的に、本社を移転いたしました。



本資料に記載されている将来の目標、予測、戦略に関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づき判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性を含んでおります。従いまして、実際の業績は、今後の様々な要因により、これらの業績予測とは大きく異なる可能性がある事をご承知おき下さい。

本資料及び当社のIRに関するお問い合わせ先
菊水化学工業株式会社 管理本部
〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄一丁目3-3
[TEL:052-300-2222](tel:052-300-2222)(代)



菊水化学工業株式会社

<https://www.kikusui-chem.co.jp/>

